

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	ベクトル解析
科目基礎情報						
科目番号	0019		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：「新応用数学」高遠節夫ほか著，大日本図書．参考書・補助教材：「新応用数学 問題集」高遠節夫ほか著，大日本図書．					
担当教員	松浦 将國					
到達目標						
1．ベクトルの和，差，スカラー倍，位置ベクトル，ベクトルの成分，内積，外積の定義を式で説明できる（復習）． 2．ベクトルの微分が説明できる． 3．接線ベクトルを用いて空間上の曲線の長さが計算できる． 4．法線ベクトルを用いて空間上の曲面の面積が計算できる． 5．スカラー場の定義が説明でき，勾配を求めることができる． 6．発散，回転を求めることができる． 7．スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ線積分を計算できる． 8．グリーン定理を説明できる． 9．スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ面積分を計算できる． 10．ガウスの発散定理とストークスの定理が説明できる．						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの和，差，スカラー倍，内積，外積などの計算問題をほとんど解くことができ，これらに関連した公式の導出も概ね自力でできる．		ベクトルの和，差，スカラー倍，内積，外積などの計算問題を概ね解くことができ，これらに関連した公式の意味も説明できる．		ベクトルの和，差，スカラー倍，内積，外積などの計算問題をほとんど解くことができない．	
評価項目2	ベクトルの微分に関する計算問題をほとんど解くことができ，内積や外積を組み合わせた種々の公式の導出もできる．		ベクトルの微分の定義を概ね正しく答えられて，ベクトルの微分に関する計算問題を概ね解くことができる．		ベクトルの微分の定義をあまり答えられず，ベクトルの微分に関する計算問題をほとんど解くことができない．	
評価項目3	曲線の長さの公式に関する計算問題をほとんど解くことができ，曲線の長さの公式の導出もできる．		曲線の長さの公式を利用して，空間上の具体的な曲線の長さを求める問題を概ね正しく計算できる．		曲線の公式の意味を説明できず，それを利用して空間上の曲線の長さを計算することもほとんどできない．	
評価項目4	単位法線ベクトルを用いた曲面の面積公式を証明し，様々なアプローチにより具体的曲面の面積計算ができる．		単位法線ベクトルを用いた曲面の面積公式を利用して，具体的曲面の面積計算ができる．		曲面の面積公式をほとんど説明できず，具体的曲面の面積計算もほとんどできない．	
評価項目5	ナブラの線形性に関する公式の証明ができ，具体的なスカラー場に対して勾配を計算することができる．		ナブラの線形性をおおむね説明でき，具体的なスカラー場に対して勾配を計算することができる．		ナブラの線形性をほとんど説明できず，具体的スカラー場に対する勾配の計算もほとんどできない．	
評価項目6	具体的なベクトル場に対して発散と回転を計算でき，発散と回転に関する公式を概ね自力で証明できる．		ベクトル場の発散と回転の違いをナブラにより説明でき，具体的なベクトル場に対して発散と回転を計算できる．		ベクトル場の発散と回転の違いを説明できず，具体的なベクトル場に対して発散と回転を計算することができない．	
評価項目7	スカラー場やベクトル場の具体的な計算ができ，それらの線積分の定義も概ね正しく説明できる．		具体的なスカラー場やベクトル場に対し，与えられた具体的閉曲線について線積分を概ね正しく計算することができる．		与えられたスカラー場やベクトル場の線積分の定義を説明できず，これらの具体的計算もほとんどできない．	
評価項目8	グリーン定理を応用した計算問題を解くことができ，グリーン定理の証明もできる．		グリーン定理を応用して具体的な線積分の計算問題を解くことができる．		グリーン定理の内容をまったく説明できず，線積分の計算問題に應用することもできない．	
評価項目9	具体的なスカラー場やベクトル場に対して面積分の計算ができ，面積分の公式の証明の概要も説明できる．		面積分の公式を応用して，具体的なスカラー場やベクトル場に対して面積分を計算することができる．		面積分の公式の内容をまったく説明できず，具体的なスカラー場やベクトル場に対して面積分を計算することができない．	
評価項目10	ガウスの発散定理やストークスの定理の概要を説明でき，様々な数理的モデルに應用できる．		ガウスの発散定理やストークスの定理の概要を具体的なモデルに即して説明できる．		ガウスの発散定理やストークスの定理の概要をまったく説明できない．	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ベクトルに関する微積分を具体的な計算問題に即して習得し，物理学や工学等に應用することを目標とする．本科目は物理学や工学等でよく取り扱われる重要な科目である．					
授業の進め方・方法	おもにベクトルの微分，勾配・発散・回転の計算法，ベクトル場／スカラー場での線積分や面積分を学習する．本科目は学生の予習を前提に行われる．					
注意点	各回授業前に予習を済ませ，教科書内の用語の意味や具体例を把握し，例題も解いておくこと．教科書や問題集などで問題を解き，具体的な問題の解法を習得すること．不明な点は必ず担当教員に質問すること					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ベクトルと内積・外積		ベクトルの和，差，スカラー倍，位置ベクトル，ベクトルの成分，内積，外積の定義を式で説明できる（復習）．	
		2週	ベクトルの微分		ベクトルの微分が説明できる．	
		3週	曲線と曲面		接線ベクトルを用いて空間上の曲線の長さが計算できる．	

		4週	曲線と曲面	法線ベクトルを用いて空間上の曲面の面積が計算できる.
		5週	スカラー場とベクトル場	スカラー場の定義が説明でき, 勾配を求めることができる.
		6週	スカラー場とベクトル場	発散, 回転を求めることができる.
		7週	スカラー場とベクトル場	発散, 回転を求めることができる.
		8週	線積分	スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ線積分を計算できる.
	4thQ	9週	線積分	スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ線積分を計算できる.
		10週	線積分	グリーンの定理を説明できる.
		11週	線積分	スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ面積分を計算できる.
		12週	線積分	スカラー場とベクトル場に対してそれぞれ面積分を計算できる.
		13週	線積分	ガウスの発散定理とストークスの定理が説明できる.
		14週	線積分	ガウスの発散定理とストークスの定理が説明できる.
		15週	期末試験	上記項目に対して到達度を確認する.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	平常点	合計	
総合評価割合		75	25	100	
能力		75	25	100	